

# 事業実施報告

開催日	キャンプⅠ：令和5年9月2日（土）～3日（日） キャンプⅡ：令和5年10月8日（日）		
事業名	防災キャンプ		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	キャンプⅠ：19名 キャンプⅡ：14名
対象	盛岡市・滝沢市在住の小学校3・4年生		
関係機関名	東京都立大学、岩手県、滝沢市、宮古市、NPO法人古館まちづくりの会		

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

本事業は、防災・減災体験学習型の防災キャンプを実施し、自然体験活動の中で自らの衣食住を営んだり、コミュニケーションワークショップで他者とかかわることを通して、自らのできることは自分で実行し、難しいことは互いに補いあうことの重要性に気づくことで、防災の基本となる「自分の命は自分で守る」「お互いに助け合う」という「自助」「共助」の意識を育むことを目的に実施した。併せて、令和7年度を目的に本事業のプログラムや評価方法をモデル化し、青少年教育施設や関係団体に普及するため、事業内容や評価手法のブラッシュアップを図った。

キャンプⅠでは、1日目は自助をテーマにソロテント設営や野外炊事をし、班でタープ設営を行った。2日目は共助をテーマに野外炊事やコミュニケーションワークショップを実施した。活動の最後に各自で防災・減災行動計画を立案し、キャンプⅡまでに実施するようにした。また、キャンプⅡでは、防災・減災行動計画の取組状況のグループ内での発表会、全体共有を行った。午後は、多様性についての学びを深めるため、お年寄りや妊婦など個別の配慮が必要な人々を想定した避難誘導体験を実施した。

本事業の成果としては、自助・共助意識の向上を目指したプログラムに関して、昨年度までの取組をさらに精査することができた点が挙げられる。本事業では自助・共助の意識の高まりに焦点化するため、キャンプを2度実施するとともに、野外活動だけでなく、コミュニケーションワークショップや防災・減災行動計画の作成などの活動も実施した。その結果、地震などの個別の災害における具体的な対策だけでなく、災害に対する基本能力・態度（＝備え）に対する意識の向上が見られた。よって、3年間実施してきた内容が事業目的に対し適切であると考えることができた。

ボランティアの育成については、事前研修を日帰りで行い、本事業の目的や子供に対しての接し方、実際の活動等の確認を行うことで、事業当日、円滑に活動を進めることができた。評価方法についても普及を前提にモデル化を図るため、より簡便で誰でも使用できる方法を用い、実証を積み重ねることができた。今年度も、防災・減災行動計画の立案、行動計画に基づいて活動し気付いたことの記述による質的評価と、質問紙を用いて防災・減災に関する行動の程度が事業前後でどの程度変化したかを捉える量的調査の両方を行った。定性的な評価と定量的な評価の相関関係を見だし、数値を用いた難易度の高い分析を行うことなく、行動計画や気付きの記述等を分析することが事業の教育効果を正確かつ簡便に測定できる方法であると位置付けられるよう、今後も継続して実施し分析を積み重ねていきたい。また、防災キャンプの応募数を増やすために、今年度の取組の様子や成果等を紹介する工夫をしていく必要がある。

## 状況写真



自助をテーマとしたテント設営



共助をテーマとした野外炊事



コミュニケーションWS



キャンプⅠ後の行動計画作り



実施状況の共有



避難誘導体験